朝倉
介護保険事業者
協議会
会報

Vol.31

朝倉介護保険事業者協議会　会報
Vol.31　平成22年3月31日発行（通巻第31号）

林田スマ氏　公開セミナー

～ 介護現場とコミュニケーション ～

一昨年、11月11日が「いい日、いい日」の語呂合わせで「介護の日」として定められましたが、昨年福岡県で初めて「介護の日」の集いが開かれ、記念講演をされたのが、元RKBアナウンサーで現在大野城まどかぴあの館長をつとめておられる林田スマ先生でした。「言葉は人にくっついてくる」「言葉は温度を持っている」等、介護現場において、いかにコミュニケーションが大事かをご自分の体験を通して博多弁で話されたのですが、楽しさの中に感動が一杯つまったひとときを過ごさせていただくことができました。老健療養部会の研修で、林田先生をお呼びすることができないかと会長や事務局長に相談したところ、それならば全会員に案内しようということになり、居宅介護支援部会、老人福祉施設部会、老健療養施設部会の３部会が主管する公開セミナーとして実施する運びとなりました。

年末の慌ただしい時期のご案内となりましたが、反応も上々で、最終的には322名の参加者のもと、本年1月27日（水）午後7時よりピーポート甘木中ホールにてセミナーを開催することができました。熊谷真由美さん（デイケアセンターうらうめ）の司会でセミナーを開始、今村会長から「きっと心地よい９０分、あっという間に過ぎますよ」とのあいさつのあと、いよいよ講演会が始まりました。林田先生が赤い色がお好きなことは、エッセーで知っておりましたが、当日もピンクのジャケットを颯爽と着こなされ、軽妙な博多弁の語り口に場内は最初から爆笑の渦に包まれていました。そういった楽しい話の中にも、とても感銘を受ける言葉がちりばめられていました。「サービスとは、する人もされる人も幸せ、それが本当のサービス」「言葉には温度がある」「頭の中と心の中に財産を蓄えて」「智恵の回路を磨いていくことで言葉は変わる」「人のことはわかるが、自分のことはわからない」「情緒の共有は私たちの体の中にエネルギーを育んでくれる」「立場を変えることはできないが、相手の立場に近づくことはできる」「あふれるものが出せる心の柔らかさをもっていたい」「言葉は絶対に消えない。消しゴムは使えない。

林田スマ氏　公開セミナー　～介護現場におけるコミュニケーション～

ほんの少しの引き算が大事、それに少しの足し算が必要」などなど。また、働くということに対して「自分自身がこうして学ぶんだ、育つんだ、いい仲間がたくさんいるんだ」「同じ働くなら生き生きと、心豊かに一日を過ごしていく、それがご高齢の方を変えていく」「私が変わってみると、相手も変わってくる」「職場はステージです。やっぱり見つめられているんです。」改めて、働くことの意味を考えさせられた気がしました。詳しくは是非エッセーを読んで欲しいのですが、「おばあちゃんのおかげ」とカーネーションの話には、本当にホロリとさせられました。

その後、参加者から感想をとの意見を募りましたが、「スマッシュイレブンの時、はがきを投稿して３０００円もらいました」との発言もあり、大いに会場は盛り上がりました。最後に多田副会長から、「話を聞いて、心がふわーっと温かくなりました。介護の仕事がみんなの檜舞台です。言葉は神様からいただいた贈り物。心から言葉がでるようにしていきたい。」と御礼の挨拶がありました。その後、参加者を代表して６名の方に壇上にあがってもらい、先生に御礼の気持ちを添えてバラの花束をお渡ししました。感動と気づきの公開セミナー、皆様のご参加本当にありがとうございました。

受講者の感想（抜粋）

言葉には良い言葉と悪い言葉があり、何気ない言葉が言った方は忘れても、言われた方は忘れない。常に相手の立場に変わって話すことの大切さは利用者はもちろん、スタッフとのやりとり業務の中で特に注意しなくてはいけないと再確認しました。一升瓶からあふれるように醤油を入れ、あふれるくらいのありがとうの気持ちを忘れずに、良い言葉を沢山言葉にしていきたいと思いました。
言葉には良くも悪くも力があることに気付かされました。私たちが何気なく言っている一言が相手の胸に言霊として刻まれてあるかもしれないという事を常に気にとめておかなければならないと思いました。在宅で過ごされている利用者様方に言葉の援助が出来る様努力していきたいと思います。
人と向き合う上手な方法として①安心感を与える②自尊心の配慮、など介護をさせていただく上でとても大切なことを教えていただきました。そして、介護現場においても職場はステージ、ここは舞台なんだ、いつも見つめられていることを意識し、いきいきと心豊かにすることなどのお話は、私自身のこれからの介護の仕事をする上で活力と勇気をたくさんいただくことができました。
自分が言ったことは忘れてしまっているけれど、人から言われた事はしっかり憶えているということや、その言った言葉によって心をあたたかくしたり逆に冷たく深い傷になるということがあるという事が特に心に残りました。
日頃から”相手の立場や思い”にできるだけ近づき感じ、また理解するよう努力していたつもりですが、先生の面白く楽しい講演を聞き、様々な相手への伝え方、理解の仕方を学ぶことができたと思います。時が経つにつれ、初に心構えたことも自然と意識しないうちに薄れていく中、相手を思い行動することを考えさせられました。
「言われたことは覚えていても、言ったことは忘れている」「気持ちは言葉で表現しないと伝わらない」など、”そうそう、その通り”という共感できるお話でした。対人援助職者として、「言葉とこころ」を大事にしていきたいと思い直させてもらった講演でした。

事業報告Ⅰ

平成２１年度 第５回スタッフセミナー

「高齢者の口腔ケア」

平成２２年３月１１日（金）、朝倉市総合市民センター（ピーポート甘木中ホール）にて今年度のスタッフセミナー第５回が開催された。

社団法人　朝倉歯科医師会・理事の今井富実生氏を講師に「高齢者の口腔ケア」と題して、歯と健康の関係性をはじめ、咀嚼（そしゃく）の重要性、嚥下（えんげ）障害の実態、それらを普段から予防するためのケア方法など多岐にわたる解説がなされた。

講演では、８０歳時点の歯の数や咀嚼能力の高さがＱＯＬの充実にも関係していること、加齢や病気による嚥下能力の低下および誤嚥が引き金となって起こる事故とその予防法などが紹介されたほか、最も身近な口腔ケアである歯磨きが認知症予防にもなり、ご本人の自立性を助けるだけでなく、リハビリとしても適当であることなど効果の説明がなされ、来場者の注目を集めた。

８０２０運動（ハチマルニイマル）

生涯、自分の歯・口で、楽しく食べられることが、元気で、健康の維持・増進となり、生涯を通じた幸福への第一歩に繋がることになります。

80歳になっても**20**本、自分の歯を保ちましょう

お口の健康を守る三原則

①歯磨き	②うがい	③義歯（入れ歯）の取扱

活動報告

役員会・拡大運営委員会

認知症サポーター１００万人キャラバンの経過報告

広報部より、今回は役員会を掲載したいとの依頼を受け、様々な事業を行ってきた中で、地域介護普及事業としての「認知症サポーター１００万人キャラバン」についての経過報告をさせていただきます。

２年前、新役員就任後、地域介護普及事業の目的に沿った具体的なコンセプト、方法、結果の確認がとれる事業として何をなすべきかを役員会、拡大運営会議において議論を重ね、また、朝倉地域行政、社協に出向き、地域の介護ニーズのリサーチ等を行いましたが、具体的な地域貢献事業内容が明確にできず半期を経過しました。そんな中、会長から「協議会の地域介護普及事業として、地域に貢献できる『認知症サポーター１００万人キャラバン』事業はどうだろうか。・・・」との提案があり、「地域介護普及事業の目的に合致し、地域のためになることです。やりましょう。事務局として内容、手続き等を調べましょう。」と役員会での同意が得られ、その後の拡大運営会議、総会の了解のもと、この事業がスタートした訳です。でも、順風満帆ではありませんでした。

調査した結果、窓口になることができるのは行政、行政から委託されたNPO法人等であり、任意団体である当協議会では窓口になれないことが判明し、その後、全国キャラバン・メイト連絡協議会に窓口設置を数回問合せましたが、「任意団体では、窓口になることは難しい。」との回答しか頂けない状況でした。
（福岡県、近隣の行政、近隣の協議会等の認知症取組の調査も実施）

そこで得た結論が、①朝倉地域行政に窓口になっていただく、②当協議会が法人格を取得し、地域の行政から委託を受けて窓口となる、このどちらかしかありませんでした。

それでは、同時並行に事を進めようということになり、朝倉地域行政へ「認知症サポーター１００万人キャラバン」内容説明、窓口開設依頼に何度となく足を運ぶとともに、法人格取得に向けた検討を行いました。

一方では、この事業展開のために、２１年３月小郡市で開催されたキャラバン・メイト養成研修に会長・副会長以下３名の役員が受講し、朝倉地区初のメイトが誕生しました。

そして、協議会の想いが通じたのか、朝倉市が単独でも平成２１年度事業計画として実施するとの意思表示をいただくとともに窓口を開設していただき、２１年８月、キャラバン・メイト１０９名が誕生しました。

また、筑前町、東峰村においても窓口を開設していただいております。
現在は、行政と協働でサポーター養成講座の取組を行っているところです。

今後は、この事業を支援事業として位置づけ、地域のために協議会としてできるかぎり支援を行っていくこととします。

Hobby Box

～ 最近の感動 ～

介護老人保健施設城山荘　坂口 晶子 さん

注：写真中央が坂口さん

高校生の頃、油絵を描いて賞をもらった事がありました。今でもその絵を持っていますが、紅葉の色も褪せ、幼く、ちっぽけな絵に見えてしまいます。

これまでスポーツのサークルに入ったり、今も続けていますが、習字やストレッチ体操に通ったり、また、花作りや樹脂粘土の人形作りをしたりと、その時々で何か楽しみを見つけ、過ごして来たように思います。

家庭を持つと、子供や家庭の事が優先となり、自分の楽しみを持ち続けるのは、なかなか思うようにいきませんが、そんな時間を過ごせた事は幸せだったと思います。

今年のバンクーバー冬季オリンピックの際、アスリート達が試合を終え、インタビューに応じている姿をテレビで見ましたが「楽しめたので良かったです」「見てくれる人達が楽しく思ってくれれば幸せです」と話していました。彼らの挑戦は趣味の域ではありませんが、挑んだ事に満足できた時、あのような溌剌とした表情で、あの言葉がでるのだろうと感じます。

人生の折り返し地点に近づいた私には、到底彼らの情熱や精神力は真似できませんが、遠い青春の頃、夢中になれた事や楽しめた事を振り返り、心の奥にある消えかけた炎にもう一度風を入れてみたい、色褪せた紅葉の一枚に色を重ねてみたい、等欲深い事を想像したりしています。

これからの長い人生、明るく楽しく充実した日々を生きる為のパートナー探しをしてみたいと考えています。

My Way

タイヘイＭ＆Ｃ久留米営業所　國武 慎矢さん

今回の紹介者は「朝倉医師会ケアプランサービス　安丸　享子さん」です。

タイヘイM&Cの國武慎矢さんをご紹介させて頂きます。國武さんは介護福祉の資格を持ちその経験を生かし、福祉用具プランナーとして頑張って６年目になります。

「お客様本意」をモットーとし、いつ電話しても「ハイ！國武です。」と元気に明るい返事でフットワーク軽く笑顔で対応してくれます。

次回は國武さんからのご紹介で

朝倉健生病院訪問リハビリ 永露 真由美さんです！

介護スタッフリレーコラム

「名前の由来」

訪問看護ステーションＫｏｕ　手島　智康さん

昨年より協議会の訪問看護部会と訪問リハビリ部会に入会させていただきました、久留米市東合川新町に事業所を構えております訪問看護ステーションＫｏｕと申します。協議会加入後、８月２６日通所リハビリ・通所介護の合同部会での研修会にて「集団活動（レクレーション）の見方」のテーマにて講演させていただきました。加入後すぐお声をかけていただきました、Ｔさんありがとうございました。少しはお役に立てたでしょうか？・・・。

さて、当事業所を開設後から、よくこのように聞かれてきました。「なぜ名前がＫｏｕなのですか？」「Ｋｏｕの意味は何なのですか？」ｅｔｃ。訪問リハビリを中心としたサービス提供を地域の中で展開し利用者様の健康的な生活造りを図ることを目的とした上で、地域貢献を果したいがために事業所を開設した際、当事業所の理念を「健康と幸福を願って」といたしました。その「康」と「幸」の字を共通して表現したいがため「こう」や「コウ」を当てはめましたが何かすっきりせず、ふとアルファベット表記をしてみたところビビッときたため「Ｋｏｕ」に決めさせていただいた次第です。今では私達への呼び方もそれぞれの名前ではなく「Ｋｏｕさん」と呼ばれる事も多くなっております。今後も気軽にお声をかけていただけるようスタッフ一同がんばっていきますので、よろしくお願い申し上げます。

徒然日記

朝倉医師会　訪問看護ステーション　Ｊ・Ｏ

～ 基礎を踏まえて基本を作る ～

3月15日の新聞に「施設急増　防火後手　札幌市グループホーム火災」の大きな見出しにドキッ。また介護保険がらみの事故が・・・死者は？残念なことに７人もの犠牲者が出てしまいました。

色んな暖房設備があるなかで『グループホームになぜストーブ？』当スタッフの中から声が上がりました。

事件当事者の方もストーブの近くで洗濯物を乾かすと燃え移る可能性があり最初は危惧したことでしょう。が、日常の介護が多忙繁雑で「注意していればいいか」と軽く考えてしまったのでしょう、その結果重大事故になりました。

火事の発生要因や、起こりえる事故の想定、そして避難、誘導など訓練を含めた対策を立てる。それを愚直に励行して行く事を基本として全員が確認していれば人の命まで奪われる事はなかったのではないかと思います。

『人命を守る、そして個人を敬い、その人の思いに添いながら安心、安全なサービスが提供できるように、朝倉介護保険事業者協議会の一人ひとりが基礎的事項や基本的動作を確実に実行しホウレンソウ（報告・連絡・相談）の強化で地域に貢献できればと願う日々です。

編集後記

１月のハイチ、２月のチリと大地震が続いています。ニュースでは一過性の報道ですが、コンビニのレジ横にある募金箱を見かけると、未だ現地の凄惨な状況が偲ばれます。なんでも日本の一部ではハイチに千羽鶴を送ろうという運動があって現地の人から迷惑だと断られた出来事があったそうです。平和に慣れすぎて本当に求められているものが見えなくなっているのでしょうか。

介護においても、利用者の方の気持ちを汲み取られるよう、常に相手の立場になって考えたいと改めて思いました。

事 務 局
朝倉介護保険事業者協議会　事務局
〒838-0814　福岡県朝倉郡筑前町高田2311
特定非営利活動法人　武光福祉会
TEL (0946)22-9743　FAX (0946)22-5465

編集 ／ 発行所
朝倉介護保険事業者協議会　広報部
〒8380-0228 福岡県朝倉郡筑前町二242-17
(有) エム・エス・ケイ 介護用品ハーテック
TEL (092)926-8109　FAX (092)926-8109
印刷／井上総合印刷株式会社